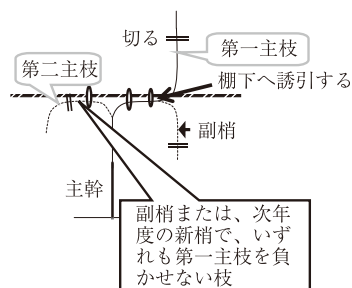
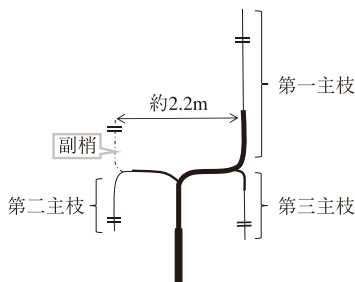


定植1年目



定植2年目



定植3年目

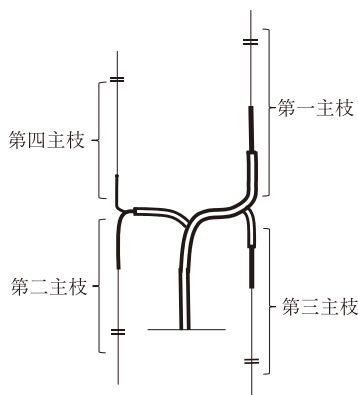


図2 H型整枝の仕立て

(「農業技術体系」より)

ような枝を選択・配置する。
第一・第二主枝は約1m程度伸ばし、分岐点で進行方向をゆるやかに九〇度曲げて誘引し、主枝延長枝とする。
それぞれの分岐点からは第三・第四主枝を副梢、または次年度の新梢で配置する。
主枝延長枝は、発芽率向上のために芽キズ処理、またはシアナミドなどの発芽促進剤(一月号参照)を処理する。

三年目～四年目以降

それぞれの主枝が、おおよそ決定される。最終的な主枝長は、園の地力にもよるが、片側で約七～八mを目安とする。

結果母枝の切り詰め

寒さによる芽の枯れ込みを防ぐため、犠牲芽剪定で切り詰めを行う。

結果母枝の切り詰めは、基本的には一～二芽で犠牲芽剪定を行う。ただし、前後に芽座がない場合は、三芽目を犠牲芽剪定して芽数を確保する(図3・次ページ)。

樹齢が進むと芽座が大きくなり、結果部が主枝から遠くなるため、一芽座に複数の結果母枝がある場合は、主枝の近くから発生している結果母枝を利用し、芽座を大きくしないよう心がける。

芽キズ処理

若木や、徒長的な結果母枝は中間部の発芽が悪く、新梢勢力が不ぞろいとなりやすい。